

参 考 資 料 3  
全 員 協 議 会  
ク リ ー ン セ ン タ ー ・ 環 境 課  
令 和 4 年 1 2 月 5 日

# 生ごみ資源化処理における分別収集の検討状況 令和4年度中間報告

# これまでの町内会のご協力と実験の結果

## 上山口

- 実験期間：令和3年10月～12月
- 生ごみ：分別率89.1%/833世帯
- 収集頻度：生ごみ週1回  
燃やすごみ週1回
- 多重袋の排出率：57%
- 生ごみ意見：週1回厳しい
- 燃やすごみ意見：紙おむつ等の臭い

## 真名瀬

- 実験期間：令和4年6月～8月
- 生ごみ：分別率94.5%/36世帯
- 収集頻度：生ごみ週1回  
燃やすごみ週1回
- 多重袋の排出率：多重袋73%
- 生ごみ意見：週1回厳しい
- 燃やすごみ意見：紙おむつ等の臭い
- 臭い対策：保管容器を貸与し、  
一定効果がみられた

# これまでの町内会のご協力と実験の経過

## 三ヶ浦

- 実験期間：令和4年11月  
～令和5年1月
- 生ごみの分別 49世帯
- 収集頻度→生ごみ週2回  
燃やすごみ週1回
- 収集方法→多重袋NG  
指定袋の配布・使用
- 臭い対策→保管容器を貸与



排出袋



保管容器

# 収集の検討方向と課題

## 収集頻度の検討方向

- 生ごみ 週2回
- 燃やすごみ 週1回

## 課題

- 収集体制の見直し
  - ・ 人員確保
  - ・ 車両等機材経費

# 排出袋の検討方向と課題

## 生ごみ排出袋

- バイオマス原料100%の袋を使用
- 世帯に必要な袋を無償配布

## 燃やすごみ等その他排出袋

- 従来どおり

## 課題

- 袋の調達及び配布管理
  - ・ 安定的な供給及びコスト
  - ・ 必要枚数、サイズ
  - ・ 町民への配布方法及びコスト
  - ・ 逗子市との協調
  - ・ 不足等のイレギュラーな対応
  - ・ 財源
- 多重袋排出

# 生ごみ収集袋の比較検討

袋の種類	概要	単価 (円/枚) 税込	焼却時の CO2排出量 (kg-CO2/年)	分解		使用期限
				土壌	海洋	
通常プラスチック袋	ポリエチレンの袋（通常のレジ袋） 葉山町の現状の方法	—	33,309	×	×	○
バイオマスプラスチック袋 (バイオマス25%)	植物由来の原料を25%使用した袋。 焼却時のCO2排出量計算において25%のカーボンオフセットが可能。 逗子市・鎌倉市が使用	4.7 7.3 11.0	24,982	×	×	○
バイオマスプラスチック袋 (バイオマス90%以上)	植物由来の原料を100%使用した袋。ただし、袋の着色料等の観点から、表示としては最大の90%となる。 焼却時のCO2排出量計算において90%のカーボンオフセットが可能。 主にコスト面から他自治体でのごみ収集における実用例は無く、イベントでの使用実績。	8.1 10.5 11.2 22.0	3,331	×	×	○
生分解性プラスチック袋 (土壌)	プラスチックとしての機能や物性に加えて、ある一定の条件の下で自然界に豊富に存在する微生物などの働きによって分解し、最終的には二酸化炭素と水にまで変化する性質を持つ。原料として、植物などの再生可能な有機資源、又は、化石資源を使用したもの。 供給・コスト・使用時の機能等に課題がある。 袋の構造上バイオマス40%程度のカーボンオフセットまでが可能。 海では分解しない。	21.7 34.1	19,985	○	×	×
生分解性プラスチック袋 (海洋)	基本的な考え方は、上記生分解性プラスチック袋（土壌）と同じ。 使用期限は3～6カ月、土壌でも海でも分解可能。 他自治体でのごみ収集における実用例は無く、イベントでの使用実績。	48.4	19,985	○	○	×

# 今後の予定

令和5年4月～ 生ごみ分別収集実証実験（バイオマス90%）  
8月 生ごみ分別収集方法の決定（頻度、袋、体制等）



令和6年度 町民への分別変更の説明（広報、町内回覧、説明会等）



令和7年3月 生ごみ資源化処理施設供用開始